編集後記

このたびの生産技術研究所創立50周年を迎えるに当り，坂内正夫所長を委員長とし，各研究部，事務部の委員からなる「50周年記念事業特別委員会」が組織され，筆者がその座長役をおおせつかった．いうまでもなくこの委員会の仕事は，わが研究所の大きな節目である50周年の記念としてのイベントを企画・実施することで，その内容については，研究推進室における予備的な発案を踏まえて，平成9年12月から準備に取りかかった．その結果，以下のような盛り沢山のイベントを行うこととなった．

□ 記念シンポジウム「人間・環境システムの今日と明日」（6月1日）
□ 記念講演会（6月3日）
□ 記念式典・祝賀会（6月3日）
□ 記念出版「生産研究50周年特集号」
□ 記念出版「工学の絵本」

生産研究特集号は，これまでにも10年ごとの創立記念のたびに出版されてきたが，今回は大きな節目である50周年記念であること，また生産技術研究所の駒場キャンパスへの移転も開始され，大きな転機を迎えていることもあって，麻布（六本木）キャンパスにおけるこれまでの本所の研究活動を概観した内容を目指すこととなった．本誌の編集に当っては，溝部裕司助教授（第4部）を主査とする編集委員会が組織され，各部委員の協力のもとに内容の構成，歴史的な写真の収集，原稿依頼（督促）などなど，並々ならぬ努力が払われた．その結果，見ていただいたとおりの内容のある記念特集号を発行することができた．

本誌の記事の一つである名誉教授の先生方による座談会「生研の生い立ち」は，実は平成8年4月に行われたもので，生産研究46巻9号にも掲載されたものを再掲載した．というのは，第二工学部を母体として生産技術研究所が誕生した背景，さらに西千葉から麻布に移ってきた時期の真の経緯が公式記録とは別の当時の生々しい雰囲気で語られている貴重な記録であり，本所の麻布時代の幕開けに至る苦難の歴史を風化させることなく，50周年記念特集号である本誌にも留めたかったからである．

それに続く記事は，麻布時代における数々の出来事，またこれから始まる駒場での新展開の準備の経緯を取りまとめている．これらの内容は，現時点ではまだ歴史というには生々しすぎるものも含まれているが，50周年のこの機会にとりまとめておくこととした．

なお本誌とは別の記念出版として，「工学の絵本」を出版することとなった．この出版物は，これまでの大学関係の出版物としてはきわめて異例なもので，工学研究の過程で得られた貴重な資料をヴィジュアルな形で記録しておこうという主旨で企画された．工学というと，硬い，わかりにくい，（ダサい）という印象をもたれがちな風潮に対して，少しでも興味を喚起しようというのが趣旨である．この出版には曲渕英邦助教授（第5部）を中心とした編集委員会が組織され，短期間にもかかわらず驚異的な努力によって，本所における幅広い工学研究の記録が発掘された．

（第5部教授・橘　秀樹）

部主任から創立50周年記念事業特別委員会の委員をやれと言われたときには全く予想だにしていませんでしたが，たまたま委員の中で出版部会のメンバーでもあった私が50周年誌の編集を任されることとなりました．成り行きだったとはいうものの，後で考えてみれば，平成8年7月に工学系研究科から移ってきたばかりの新参の身でこのような大任を引き受けたのはいささか無謀であったようで，行き届かない部分が多々あるままに時間切れとなってしまい，皆様には申し訳ない気持ちです．最初は面白い古い写真をたくさん掘り起こしてもっと充実したグラビアページをつくろうと構想したりもしたのですが，結局はほとんどを過去の出版物から集めてきて再構成するにとどまった点も心残りです．それでもなんとか発刊にこぎつけられたのは，大先輩の先生方や現在の所の教官や職員の皆様が，御多忙中にも関わらず素晴らしい原稿をお寄せ下さったからで，心より御礼を申し上げます．なお，過去に発刊された10周年ごとの記念号と異なり，現在の研究内容の写真による紹介が省略されているのは，今回は「工学の絵本」と題した生研の研究活動を図・写真で紹介する印刷物が同時に刊行されるためです．是非，本誌とあわせてご覧いただきたく存じます．

本誌には，原稿の依頼，編集の過程での不手際で生じた不統一な点がかなりありますことも，お詫びいたします．例えば，研究室紹介では，最初は皆様に1教官1または半ページとして原稿依頼をいたしましたが，これを越えた原稿が来たときも，お忙しい中で心をこめて書いて下さった原稿ですので，やはりそのままで掲載いたしました．ところが，部によっては少し越えた場合には委員の先生が削るようにお願いした場合もあったようですし，一方，無理して1ページにまとめたけれどそういうことならもっと書きたかったとおっしゃる先生もおられることでしょう．私共の方針，連絡の不徹底で申し訳ありませんでした．

原稿はほとんど他人に頼んで書いてもらってるだけとはいうものの，編集作業にはかなりの手間がかかりました．勿論，それにかかりきりだったわけではありませんが，いつも心にはかかっていました．大きな負担ではありましたが，やってよかったのは，いち早く皆様の原稿を読ませていただいたことでした．生研に着任して間もない私には，生研について知るために大変役立ちましたし，また諸先輩方のご努力の一端をうかがい知ることができて今後の研究生活に対する大きな励みともなりました．手書きで原稿をいただいた時は，それを眺めながらお書きになった先生のお人柄を想像してみたりするのも，なかなかに楽しいものでした．

何はともあれ，なんとか予定期日内に刊行の運びとなり，これもひとえにご協力下さいました皆様のお陰でございます．編集担当者を代表して，深く御礼申し上げます．

（第4部助教授・溝部裕司）